慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	伊太利に於ける社会主義学説の発達（上）
Sub Title	
Author	金原, 賢之助
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1921
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.15, No.11 (1921. 11) ,p.1536(124)- 1546(134)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19211101-0124

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

伊太利に於ける社會主義學說の發達（上）

金原賢之助

此一編は Hauptwerke des Sozialismus und der Sozialpolitik, herausgegeben von Dr. Georg Adler の 9 Heft. の Enrico, Ferri, Die revolutionäre Methode 1 Jurin 大學經濟學講師 Dr Robert Michels の寄せたる序文 "Die Entwicklung der Theorien im modernen Sozialismus Italiens" を骨子として之に多少の補筆を爲したものである。

一

伊太利に於ける社會主義の起源は、之を十九世紀の前半に遡ることが出來るけれども、其確然たる發達を爲したのは其後半である、と說く論者が多い。吾人も亦之を認むる者である。乍併尙は其先驅者とも云ふ可き者が數多あることを忘れ度くない。又其知名の一人を看過せずに進み度いと考へる。其は夫の Tomaso Campanella (1568-1639) である。Dr. Robert Michels も亦彼を以て其論を說き起してゐる。

最始の伊太利社會主義者は十六世紀の Naples の僧侶なる Tomaso Campanella であつた。Campanella は「日の都」(Civitas Solis) に於て現在の狀態を轉覆せんとするの考へを主張した。而して實に、所有權及家族を廢滅せしめて、其れに代ふるに經濟的共產主義と一夫多妻的淘汰 (Zuchtwahl) を以てせんとしたのであつた。同時に彼は人類の限りなき技術的天分に關する論文を提出して、鋭敏なる眼識を以て汽船と輕氣球を豫見した。佛蘭西革命に於てはフローレンスの人なる Fillipo Buonarotti は、賃銀勞働者は彼に屬すべき勞働の生產物の只一部分のみを賃銀として得る、從つて土地の共同化を要求すると云ふ考へからして論旨を進めた。近世刑法學の父たる Cesare Beccaria は犯罪の多數は私有財產制度に由來するものと說明した。而して其私有財產權を以て慘酷なる、且恐らく一度も其必要なき權利と爲した。十八世紀の中葉より十九世紀の中葉に至る時期は、多數の重要なる人物を產んだ——茲には唯、Pagano, V. Russo, Filangieri, Montanelli 及 G. Ferrari 等を思ひ出すことが出來る。彼等は、大部分、吾人に社會主義に關する不朽の寶を殘した。又彼等の紙背に徹する眼光と其 "Marxismus" とは今日も尙學者の賞讃する所である。伊太利社會主義の之等の先驅者は固より所謂空想論者ではなく、却て實在論者であつた、伊太利人の言に從へば Veristen であつた。けれども彼等が法學者であり哲學者であり又殆んど例外なく大學敎授であり一部は政治家であると云ふ其社會的地位に從つて、彼等は其著作を一般民衆の爲に書かずして同地位の者、同一敎育ある者の爲に書いたのであつた。彼等は彼等の知らない而も必要としなかつた社會に暮らしてゐた。であるから其著作は多數者の感情——縱令其感情は意識の底に潛在する程のものであるとするも——の指數ではなくして、單に孤獨の描寫に過ぎなかつた。洵に彼等の社會主義は其書物の上に限られてゐたのであつた。

伊太利に於て、賃銀勞働者社會に於ける社會主義的運動の發達は二ケの事情に大なる障碍を發見した。其一は生產方法に於てゞある。伊太利人は前世紀の略五十年間は全く卑俗なる農業を主とした、且小規模經營の生產方法に束縛せられた國民であつた。其れ故彼等に於ては、革命的勞働運動の結合的要素、即近世資本主義の母體內より產れ出でたる無產者階級、尙詳言すれば、生產手段に離れたる無數の生產從業者の

階級的自利心の自然の發露として觀察せらるべき、夫の複雜したる思想の保持者としての無產者……と云ふものが缺けてゐた。第二に看過す可らざることは、當時の伊太利は小國に分裂してゐて、外國及自國內の諸王によりて束縛せられてゐたと云ふことである。之に加ふるに奴隸意識を失はずにゐたと云ふ事があつた。之等の足枷を炸裂せんが爲には、青年伊太利人の總ての筋肉を伸張しなければならなかつた。而して民衆は、縱令經濟的には抑壓せられてゐても、外國の支配を免れんとする政治上の目的を達することに彼等の活動力を集中してゐた。人種鬪爭の時代に於ては、階級鬪爭は重要なる意義を有するに至るを得ない、と云ふことは經驗論の法則である。

二

此時代の產物として、伊太利の諸種の國民的階級の最始の社會的運動は、Mazzini の運動以外のものを產むことは出來なかつた。Giuseppe Mazzini が最始の伊太利運動者として組織し指揮するに際して依て以て基礎としたる敎義は、社會主義的革命的のものではなくて、社會主義的改革的のものであつた。彼に從へば、國家（Volksstaat）は其の中に住む凡ての階級の利害の最高の測定者であり和解者である。從つて國家は先第一に「最も大なる且貧窮なる階級」の援助を爲す爲に存するものである。此國家は勞働者組合と共力して——併し又他の總ての階級とも一致して——過大なる資本主義と鬪爭を行ふ可きである。Mazzini の言を以てすれば、獨占、過度の集中及思索の不健全を攻擊し、而して階級鬪爭には、社會主義の漠然たる形式——其れを Mazzini は Assoziationismus（組合主義）と名付けた——によつて、終りを與ふ可きであると。

而して此形式は、勞働を可能ならしむる資本が漸次勞働者其人の手に移つて、私有財產となる、と云ふ事の中に存するのである。其場合には、如何なる形式に於けるにもせよ、私有財產の廢止と云ふ事には關係せず、分配に於ける正義に關係してゐるのである。乍併、生產を高めんが爲には共働（zusammenarbeit）が必要である。又資本と勞働との間の連帶責任（Solidarität）——が彼等が各々保護され度いと思ふ場合には——が又必要である。其れ故組合思想の理想的形式は、農夫に於ては Halbpacht（作物の半分にて島を貸借すること）であり、工業勞働者にとりては立憲的な工場及純益に對する干與、特に生產組合の形式に於ける其れである。物質的利害は國民を相離間し、而して國民を成立する種々の階級をして貧困者の利己主義に陷らしむ。故に Bourgeoisie と Proletariat とをして、自發的に經濟的關係を結んでゐるものとして相爭はしむると云ふことは、惡事である。何となれば彼等は寧ろ相携へて、自由を達する爲に努めなければならぬからである。此目的——階級的反目の廢止——は、實際 Mazzini の意見に從へば、甚だ逆理的に聞えるかも知れないが、目的の爲の策略手段としての階級的反目の廢止、によつてのみ可能なのである。

Giuseppe Mazzini は Roma del Popolo（1871）に於て、勞働者は謀反人たるよりは使徒でなければならぬと說明し、Dottrina del Dovere 及 Legge Morale と云ふ名稱を以て、唯物主義——亦歷史的唯物主義——に對して敵對した。又伊太利無產者階級に對しては、先第一に、彼等が一世紀の長きに涉つての苦痛にも拘らず尙は憎惡を覺えなかつたことを、稱讚しなければならなかつた。而して彼等は歐洲に於て只一人、新しき效績によつてのみ新しき權利を贏ち得べきで

あると云ふことを意識して、倫理の旗印の下に集つたと云ふことを、稱讃しなければならなかつた。而して萌しかけた Bourgeoisie の寬仁、大度及正義の感情に訴へて決して倦むことのなかつた Mazzini は、伊太利社會主義に於ける倫理的特徵の眞の開祖であつた。

三

Naples の身分高き貴族の一人即 Duca Carlo Pisacane にも亦、一の甚だ強き國民的色彩を持つてゐるが併し其れにも拘らず徹頭徹尾社會主義的なる組織の計畫があつた。Pisacane は、社會問題に於ては經濟的原因の優れることを、明かに認めた。國民の運命は政治上の制度に懸るよりは、經濟上の根本條件に據ること多きものである。人類の凡ての不幸の根源は、限りなき所有權に存するのである。即或人は生命の爲に必要なるものよりも勝きものを所有するにも拘らず、他の人が生命の爲の必要以上を所有すると云ふ權利に存するのである。此事はハプスブルグ家の支配の下に在る伊太利人に於も、內國の支配下に住める者に於ても同樣に眞である。故に國民的問題と云ふものは、唯社會問題と同時に解決せらるゝことが出來る。伊太利の解放戰爭は、墺太利人及佛蘭西人に對してのみならず、又同時に一般に資本家全體に對して向けられなければならぬ。本職の將校であつた Pisacane は、彼にとつて最高の軍隊の形式である所の民兵（Milizheer）の手段に依つて、此戰爭が如何に導かるゝか、と云ふことに付いて全卷を費して書いた。此戰爭の目的は社會主義である。即自由と組合（Assoziation）とである。民主々義は不適當なるものであり、自由民にとつては價値なき制度であると。

Pisacane に於ては、灼熱したる愛國者と、先見力ある直觀的の Marxist とが發見せらるゝのである。彼は社會革命に關する學說を、社會主義に最も好都合なる伊太利の國民的特徵と、資本集中及增加する民衆の貧困と云ふ經濟的現象とを以て、打ち立てた。唯、社會主義に感動したる且經濟的に之を必要とした農夫及勞働者は、亦伊太利から外國人を放逐するの地位に在るであらう。眞の愛國者は、其れ故、社會主義者であらねばならぬ。其れにも拘らず Pisacane の社會主義は何等擴まらずに終つた。

四

1864-1867 の間伊太利に於て活動した露西亞人 Michail Bakunin が、漸く、伊太利無產者階級に社會主義的世界觀の統一的組織を齎した。John Rae も亦、伊太利には 1868 年に Bakunin に依つて社會主義が齎されたと言つてゐる。（Contemporary Socialism, p. 57）而して Mazzini 派の大反對にも拘らず彼の主義は各地に擴まつた。伊太利社會主義運動史を述べるに當ては、之から以後を詳說しなければならぬが、其は他日に期し度いと思ふ。併し茲に於ても外國人たる彼に付て簡單ながら記すの必要がある。

人が社會主義教的義として示す所のものは、唯無產者階級其ものゝ本能と熱望とを說明することに過ぎないと、彼は思つた。Bourgeois の國家組織及經濟組織に對する Bakunin の攻擊は、マルクスの其れの如くに、此社會の不適當及歷史的に必然的なる崩解を認識したと云ふ事に基いては居らずして、却て其は、現社會の不道德を認識したと云ふことに基いてゐた。伊太利社會革命者の前提は即倫理的性質であつた。資本主義は抑壓せられなければならぬ、何となれば其は奴隸を作るものであるからである。其れにも拘らず之等の理想家は、其世界觀の本質

に於てマルクスの歴史的唯物主義に甚だ接近してゐた。道德は、彼等にとつて、現時の經濟的基礎の理想的上層部である。現時の政治上宗教上の諸問題も亦經濟的方法に於てのみ十分に解決せられ得るのである。其れ故國家も亦彼等によつてマルクス流に理解せられ說明せらる。乍併マルキストには全然缺けてゐた所の一の强烈なる心理的傾向が、彼等をして、Marx より以上にマルクス流たるに至らしめ、而して國家を以て害惡其ものとして觀察せしめたのである。伊太利の社會革命者達は Bakunin と共に、人間性と云ふものは彼等の手中に與へられた政治的及經濟的權力を必然濫用するが如き特質のものであると云ふことを、深く確信してゐた。理論に於ては明晰なる、品性に於ては高尙なる社會主義者も、其人には名譽心の强き所、專制的なる所があるが、其萠芽でも發達せしめる樣な機會を與ふるならば、國民の殉敎者より其壓制者となるであらう。此心理的源泉からして、伊太利の社會革命者達には、國家に關する見解、デモクラシイに對する觀察が流れ出てゐるのである。彼等は、Marx と共に、國家は唯經濟的特權階級による搾取を防禦するの使命を持つてゐると言ふ、けれども彼等は尙ほ一層深く進んでゐる、而して此認識から出發して理論的にも實際的にも十分なる推斷を惹いてゐる。彼等にとつては、國家は支配（Herrschaft）と同意義である。何れの支配も支配せらるゝ階級の存在を前提とする。其れ故君主國（Monarchie）と民主國（Demokratie）との原理の間には唯程度の差異が存するのみであつて種類の相違ではない。而して之も亦經濟的に支配せる階級にのみ感知し得べき事である。兩者の國家形式に於て、國家は同じ方法に於て、所有階級の經濟的利益を保護するのである。乍併、君主國に於ては或る特別の階級即軍人階級によつて支配せらるゝからして、君主國は所有階級に搾取の自由即經濟的自由を保證する、けれども政治的自由は保證しない。之に反して民主國に於ては、經濟的支配階級即亦政治的支配階級である。併し支配は先天的に國民の凡ての權利を存在せしめないものであるから、從つて、例へば無產者階級が議員選擧に干與することも亦無意義である。何となれば國民の選擧權は彼の支配者其者を選擧するの國民の權利を意味することゝなるからであると。

今日に於ては、貧窮階級を向上せしむるの手段を研究すると云ふことに關係しなくて、却て專ら問題となるは、人が絕體的の社會的正義の原理を認むることを欲するか否かと云ふ問題を提出することである。然る時、賃銀運動を活動的に行ふと云ふことは永續的價値を持たなくなるであらう。何となれば、賃銀の上增は何時でも其れに從つて生活資料の價格騰貴を生ずるものであり、又此 circulus vitiosus（誤れる循環）を免れる手段は何等存在しないからである。

民衆は其向上の爲に結合しなければならぬ。其れが爲には、自己の物に對する道德上の權利を岩の如く確信すること——其事は無產者階級に鍛練せられなければならぬものであるが——の外に、先第一に力を整備すること即組織（organisation）を必要とする。而して社會的革命が血なまぐさく行はれるか或は流血の慘事なく經過するかと云ふことは、現在の組織が日々要求する所の犧牲に關して、第二の問題を示してゐる。支配階級が、彼等の道德上の不正を意識し又彼等の支配權の正しきを立證するの不可能なることを意識して、血腥さ解剖を放棄することを希望しても、併し其れが爲斯る放棄が行は

れると云ふことは不確かである。何となれば權力政策は支配階級には餘りに固有してゐるものであるからである。

如何なる場合にも勞働階級は、其勝利の後に次の事を忘れてはならない、富者及權勢者も亦、彼等の民衆の福利を害するの能力が奪はれ次第、勞働階級の兄弟となる。其後は、彼等に對する如何なる憎惡も消失しなければならぬと云ふことであると。

Bakuninにとつては、無産者階級が其凡てゞある。力であり、生命であり、知識であり、人性であり、而して其全部の將來であるのである。唯一つが尙ほ彼には缺けてゐる、即人の元氣を引立てる思想である。快活なる青年時代の任務は、誠實なる友誼を以て勞働者の智識を開發すると云ふことである、而して又模範を示して彼等を指導すると云ふことである。其處で彼の最も重要なる本務は總ての "Aquivoken" の爭鬪に存するのである。Bakuninの伊太利に於ける誠にLassalle普魯西に於けるが如くであつた。彼は人民黨と全く分裂して、勞働者をして獨立を得せしめた。

其分裂は祖國(Vaterland)及國民(Nation)の本質に關する根本的に反對の解釋に依つて完成せられた。Mazzini其人は稀有なる結果と彼の全生命の拋擲とを以て伊太利統一の爲に專心身を捧げた。又伊太利の精神上の大僧正の信仰に深く凝り固り、而して伊太利から發送したる政治的社會的の人民解放と云ふ滑稽なる贈物に十分滿足してゐた。其Mazziniにとつては、祖國は國民の眞髓其ものであつた。即所有る敵對の終結の爲に必要なる且排他的の土地であつた。彼にとつては、社會問題は何時でも又何處でも國民的問題であつた、即唯國民的にのみ解決し得べきものであつた。外國に對して伊太利は一つのものであらねばならなかつた。伊太利解放の爲に未だ一度もMazziniは外國の援助を許さうと思はなかつた。自由戰爭の爲には彼及彼の友人は公の布告を爲しても、墺太利に對して佛蘭西を援助しなければならなかつた場合に、其戰爭に加はるを欲しなかつた。此愛國的感受性即率直なる伊太利社會主義に對して、若き社會革命家達は、彼等の明らさまなる國際的、或はMazziniの歎息に從へば山脈外の、社會主義——詳しく言へばアルペン山脈を越へたる外の社會主義即露西亞佛蘭西及獨乙に由來したる要素から成立してゐる外國の社會主義——を對立せしめた。彼等の標語に曰く「國際的Bourgeoisに對する國際的Proletariatの鬪爭」と。彼等は此標語を科學的に説明することを求めた、と同時に伊太利の社會的錯雜を示した。伊太利は少くとも五ケの「國民」或は大社會から成立してゐる。無産者の所謂Vaterlandなるものは存在しない。祖國は、今日に於ては、國家若くは少くとも其抽象したものであり、形而上學的神秘的法律的擬制である。又其は一階級の富と自由と文化とを意味し、民衆の貧困、奴隷、及抑壓された未開に基礎を置いてゐる。其れ故歐洲及亞米利加の無産階級の本質其ものゝ中には、其國境を越へて國際的結合に迄手を伸ばさんとするものが在る。此國際的勞働結合は一國の無産者階級と有産者階級との間の不自然なる結合よりも一層效果のあるものであり、又德義を守るものである。伊太利に於ては上流社會から、道德的に最も重要なる人々の多數が、其第一線の戰士となつた所の此解釋は、間もなく大なる贊成者を得、而して數年の間に國内に於ける唯一の有力なる教義として確立することに成功した。

新刊紹介

佐野學氏著

露西亞經濟史研究

大鐙閣發行價六、八〇錢

『西洋事情』二編卷之二に露西亞の農民のことを叙して左の如く記してある。

古來魯西亞の農民は大半賣奴の法を以て人に養はれ自から獨立の活計を爲すを得ず其政府に屬する者二千一百萬人富豪貴族に屬する者一千三百萬人貴族の家に養はるる賣奴の數は家の貧富に從て多寡あり千八百六十一年賣奴を禁ずるの令を下たし千八百六十三年より其命を施行して國中賣奴の法を廢せり奴主の損亡を償ふの法左の如し奴隷を買ひし元金には一年に六分の利息を得べきものと定め譬へば賣奴一人を役して毎年六「ルーブル」（魯西亞の貨幣我三十八匁二分五厘に當る）づゝを得るときはこれを金の利息に積り其元金として賣奴より百「ルーブル」を主人へ拂ひ永く身請の許を得べし此百「ルーブル」の内即時に二十「ルーブル」を賣奴もり出ださしめ殘り八十「ルーブル」は政府より拂ひ四十九年の期限を以て賣奴より政府へ返納す可しとの約條を定めり斯の如く法を立てたれども或は賣奴と其主人との私談にて身請したる者も亦甚だ多し千八百六十三年政府の扶助を以て身請したる賣奴の數は唯十萬六千四百九十七人のみこれが爲め官庫の金を費すこと一千二百四十五萬七千「ルーブル」なり然れども政府は此金を一時に出ださず其半金は紙幣を以て拂ひ半金は政府の借用として利分を與るのみ千八百六十五年の記に據れば新法益々行はれ魯西亞全國の内に賣奴の習俗皆に絶たりと云ふ』。

福澤先生が歐羅巴を視察せられたのは一八六一年のことであるが『西洋事情』二編の發行は一八六九年であるから其後に入手の材料に由てこの一段を説かれたのであらう。自分は露國農奴解放のことを日本の知識階級が初めて知り得たのは全くこの一段の記事に由つたのであらうと思ふ。爾來半世紀を經過し了せるがその間露西亞に關する傑作たるルロワ・ボリュウの L' Empire des Tsars et les Russes は一九〇一年に同僚林毅陸博士によつて『露西亞帝國』と題して日本の讀書界に紹介されて居る。次で一九〇四、五年の戰役となり、更に一九一七年の革命となつたのであるが、三月革命はなほ之を傾會し得可し、十一月革命に至ては露國農奴の過去に就て眞相を究めた上で無ければ到底之を會得することは出來無い。蓋佐野教授の新著は本邦の文獻に於けるこの方面の缺陷を補ふものとしてユニイクの價値を有つて居るのである。

本書は題して『露西亞經濟史研究』と云ふて居る。併し著者の序にも記してあるやうに農奴解放迄を第一卷、以後一七年の革命迄を第二卷として公にする豫定であつたのを豫定の第一卷分に舊稿の補訂資本主義時代の農業問題一編を添えたに過ぎぬのであつて、而して露西亞の商工業が勃興して來たのは農奴解放以後のことであるから本書は寧ろ題して露西亞農政史と云ふ可きである。最も露西亞は今日でも農民が全人口の約四分の三を占めて居るので一九一七年の二度の革命が前後共に成功したのは兎に角農民が之に援助を與へたからである。保守的であつて現狀維持に傾く可き農民にして飽くまでツアールに次で有產階級に反抗せなんだならば如何に勞働者は社會革命家達に協力せんが爲に Mazzini を見棄てゝ了つた、而して尙、Garibaldi の下に於て祖國の爲に戰つてゐた學生達も其れに倣つた。伊太利統一に關する一般の不滿足が Bakunismus に對して媒介の役割を演じたのであつた。（未完）